



クラウド DNS への ネームサーバー切替手順

Ver.1.01

2017年7月3日

株式会社 IDC フロンティア

目次

はじめに	3
1. 前提	4
1.1. 構成	4
1.1.1. 切替対象ドメイン	4
1.1.2. サーバー	4
1.2. 確認ツール	4
1.3. 切替手順概要	4
2. ネームサーバー切替手順: 準備編	5
2.1. DNS ゾーン作成	5
2.1.1. 切替先 DNS ゾーンの作成と認証	5
2.1.2. 切替先 DNS ゾーンへのレコード登録	9
2.1.3. 切替元と切替先 DNS ゾーンおよびレコードの確認	10
2.2. TTL 短縮	11
2.2.1. 切替元 DNS ゾーンの TTL 変更	11
2.2.2. 作成した DNS ゾーンおよびレコードの確認	11
3. ネームサーバー切替手順: 切替編	12
3.1. ネームサーバーの切替 その 1	12
3.1.1. 切替元ネームサーバーの NS レコード変更	12
3.1.2. 切替元ネームサーバーの NS レコードの確認	13
3.2. ネームサーバーの切替 その 2	15
3.2.1. 親ネームサーバーの NS レコード変更	15
3.2.2. 親ネームサーバーの NS レコードの確認	15
4. ネームサーバー切替手順: 事後編	17
4.1. DNS ゾーン削除	17
4.1.1. 切替元ネームサーバーの DNS ゾーン削除	17
4.1.2. 削除した DNS ゾーンが消えているか確認	18
4.2. TTL 修正	18
4.2.1. 切替先 DNS ゾーンの TTL 変更	18
4.2.2. 変更した TTL の確認	20
5. お問い合わせ	21
6. 用語集一覧	22
7. 改版履歴	23
8. リンク集	24

はじめに

本手順はお客様が現在ご利用中の他社のネームサーバーから、当社クラウド DNS にネームサーバーを切り替える際に参考としてご覧いただくための資料となります。

資料の内容と、現在お客様がご利用中の環境とは異なる場合があります。ネームサーバー切り替えをご検討の際には、必ず巻末に記載してあるクラウド DNS についての[サービス案内](#)、[サービス仕様](#)をよくご確認ください。いただきますようお願いいたします。

資料で紹介している切替手順は日本レジストリサービスでも公開している一般的かつ安全な手法をベースに記載しております。掲載内容には注意を払っておりますが、内容に誤りがあった場合でも、当社は一切責任を負いかねます。本文書の記載事項(リンク等を含む)が原因で発生した損害、データの損失、その他あらゆる不具合、不都合につきましても、弊社では一切の責任を負いません。あらかじめご了承ください。

1. 前提

1.1. 構成

1.1.1. 切替対象ドメイン

ドメイン名	TTL
example.com	3600(1 時間)

1.1.2. サーバー

種別	ホスト名 (FQDN)
切替元ネームサーバー (他社ネームサーバー)	a.iana-servers.net. b.iana-servers.net.
切替先ネームサーバー (クラウド DNS)	ns01.idcfcloud.com ns02.idcfcloud.com. ns03.idcfcloud.com.

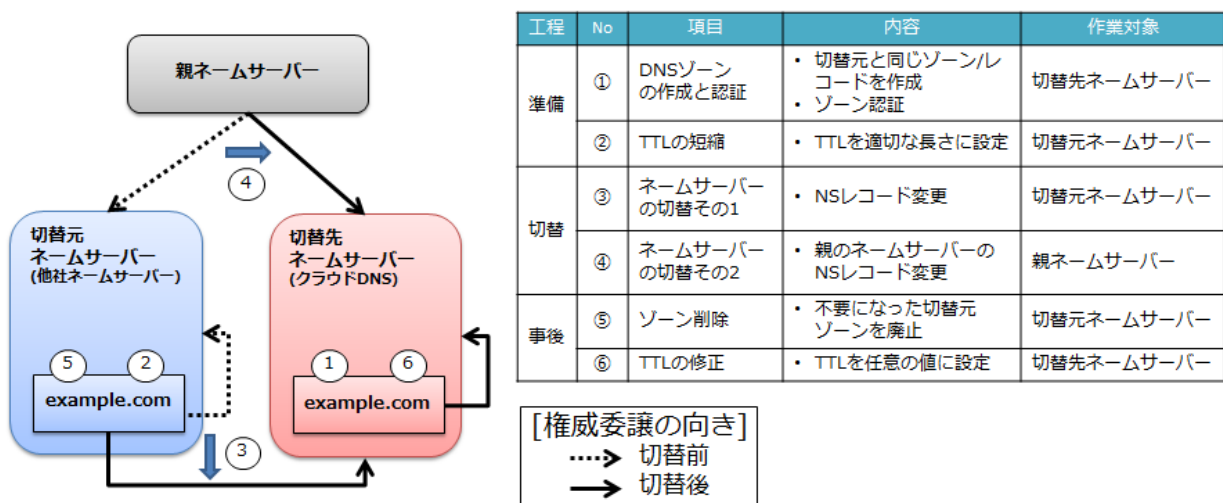
1.2. 確認ツール

Linux OS をご利用のお客様 … dig コマンド

Windows OS をご利用のお客様 … nslookup コマンド

※本手順書では上記のうち dig コマンドを使用して正常性を確認します。

1.3. 切替手順概要



2. ネームサーバー切替手順:準備編

2.1. DNS ゾーン作成

クラウド DNS に、切替先の DNS ゾーンを作成します。このとき、作成する DNS ゾーンおよびレコードは以下の3点を除き切替元の DNS ゾーンと完全に一致させるよう作成します。

- SOA レコード・・・DNS ゾーン作成時に自動で登録されます。
- DNS ゾーン自身の NS レコード・・・DNS ゾーン作成時に自動で登録されます。
- TTL・・・適切な長さに設定します。そうすることで切替時に短時間での反映と、切戻時の影響時間を短縮することができます。本手順では値を”600”(10 分間)とします。

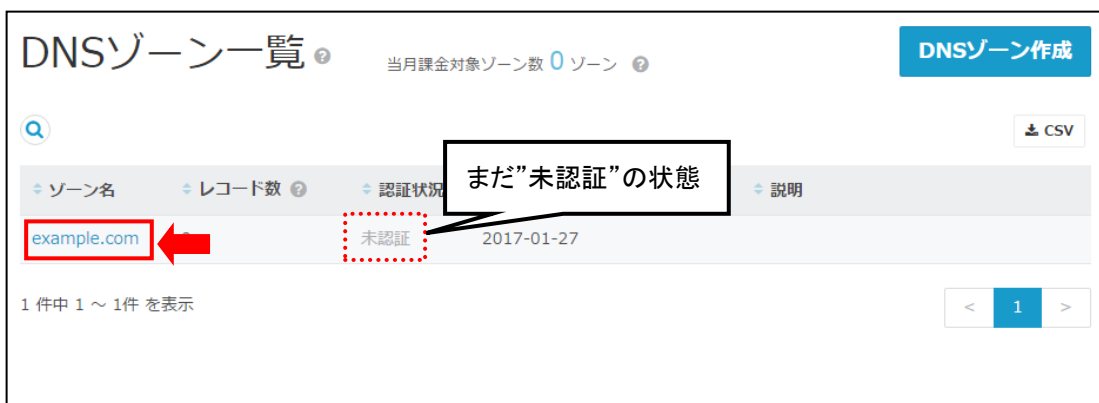
2.1.1. 切替先 DNS ゾーン の作成と認証

- ① IDCF クラウドにログインし、クラウド DNS のメニューをから【DNS ゾーン作成】をクリックします。



- ② 「ゾーン名」「メールアドレス」「TTL 初期値」を入力し【作成する】をクリックします。
これで切替先 example.com ゾーンが作成されます。この状態ではまだ DNS ゾーンが有効化されていないためネームサーバーとして機能しません。

- ③ 作成した DNS ゾーンを有効化するため、次に DNS ゾーンの認証を行います。
作成した【example.com】ゾーンをクリックします。

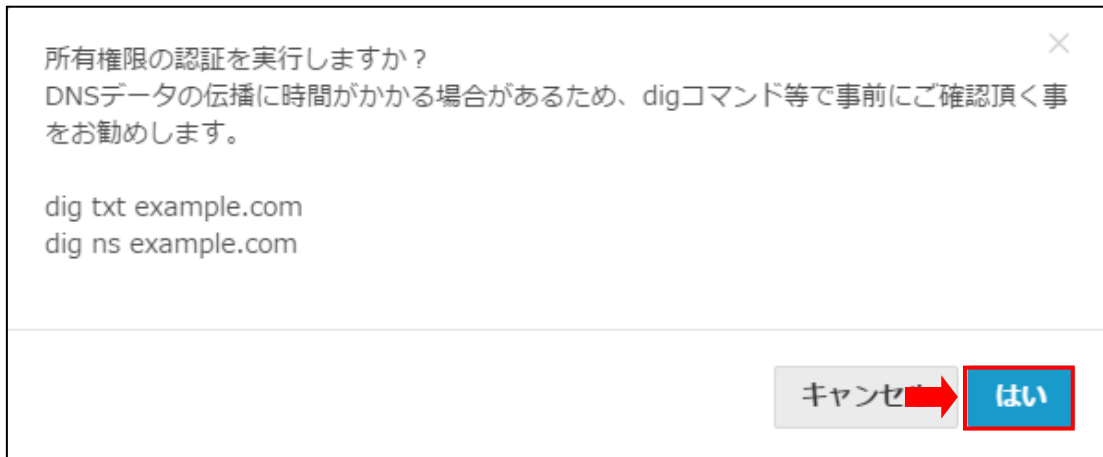


- ④ 【認証する】をクリックします。

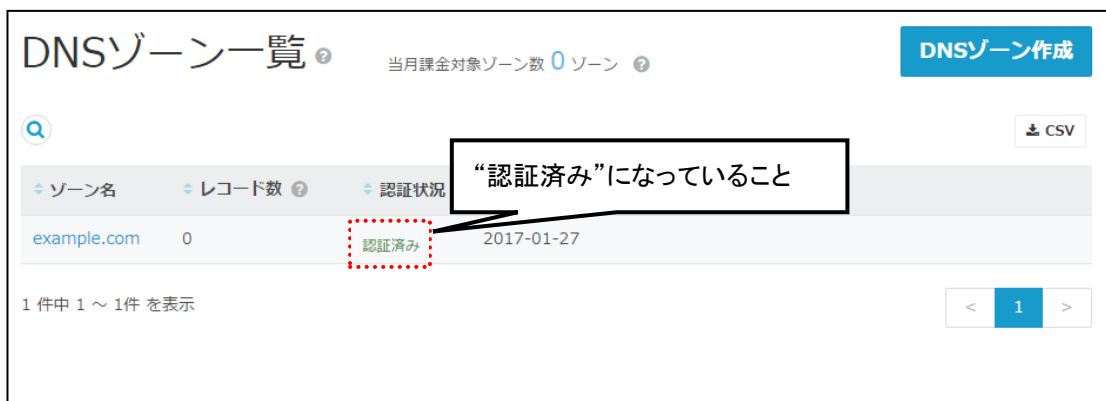


- ⑧ もう一度確認されるので【はい】をクリックします。

これで認証が完了したのでDNSゾーンが有効化され、クラウド DNS がネームサーバーとして機能するようになります。



- ⑨ 有効化されたことを確認します。IDCF クラウドにログインしクラウド DNS のメニューを開き example.com の認証状態が“認証済み”となっていることを確認します。



2.1.2. 切替先 DNS ゾーンへのレコード登録

切替元 DNS ゾーンに登録してあるレコードを、クラウド DNS の DNS ゾーン example.com に登録します。全てのレコードを登録するまで 2.1.2-①、②を繰り返してください。

① クラウド DNS のメニューから【+レコード登録】をクリックします。

DNS / ゾーン / example.com

+DNSゾーン詳細 / テンプレートを作成 / 認証する

20件 100件 Export

レコード名	タイプ	TTL	レコード数	値
example.com	SOA	3600	-	ns01.idcfdcloud.com hogehoge.idcf.jp. 1 10800 3600 604800 3600
example.com	NS	3600	-	ns01.idcfdcloud.com
example.com	NS	3600	-	ns02.idcfdcloud.com
example.com	NS	3600	-	ns03.idcfdcloud.com

4件中 1 ~ 4件 を表示

② 「タイプ」「レコード名」「TTL」「値」を設定して【登録する】をクリックします。

レコード編集

タイプ * **A** AAAA CNAME MX TXT SRV

レコード名 * www .example.com

ラベル名63文字以内、ドメイン名全体で253文字以内で入力してください。*はワイルドカード、@はレコード名空白として設定されます。

GSLB * 無効 有効

TTL(秒) * 600 (600-86400)

値 * 203.0.113.1

IPv4アドレスを入力してください。

変更する

2.1.3. 切替元と切替先 DNS ゾーンおよびレコードの確認

以下のコマンドで、上記で作成した DNS ゾーンとレコードの確認をします。以下の通り 2 点の確認事項があります。

- ① 切替元ネームサーバーと切替先のネームサーバーに登録されている NS レコードがそれぞれのネームサーバー自身を向いていることを確認します。

※クラウド DNS の NS レコードはデフォルト値”3600”(1 時間)から変更できません。

切替元ネームサーバー	切替先ネームサーバー(クラウド DNS)
<pre>\$ dig example.com @a.iana-servers.net. ns ; ;; QUESTION SECTION: ; example.com IN NS ; ;; ANSWER SECTION: example.com. 86400 IN NS b.iana-servers.net. example.com. 86400 IN NS a.iana-servers.net.</pre>	<pre>\$ dig example.com @ns01.idcfcloud.com ns ; ;; QUESTION SECTION: ; example.com IN NS ; ;; ANSWER SECTION: example.com. 3600 IN NS ns01.idcfcloud.com. example.com. 3600 IN NS ns02.idcfcloud.com. example.com. 3600 IN NS ns03.idcfcloud.com.</pre>

- ② 切替先ネームサーバーに登録されている DNS ゾーン example.com のすべてのレコードが、切替元の DNS ゾーンと同じ応答を返し、かつ TTL が 600 になっていることを確認します。

切替元ネームサーバー	切替先ネームサーバー(クラウド DNS)
<pre>\$ dig www.example.com @a.iana-servers.net ; ;; QUESTION SECTION: ; www.example.com IN A ; ;; ANSWER SECTION: www.example.com 3600 IN A 203.0.113.1</pre>	<pre>\$ dig www.example.com @ns01.idcfcloud.com ; ;; QUESTION SECTION: ; www.example.com IN A ; ;; ANSWER SECTION: www.example.com 600 IN A 203.0.113.1</pre>

2.2. TTL 短縮

2.2.1. 切替元 DNS ゾーンの TTL 変更

切替元 DNS ゾーンの TTL を切替先ゾーンの TTL と同じく、適切な長さに設定します。そうすることで切替時の短時間での反映と、切戻し時の影響時間を抑制することができます。本手順では値を 600 とします。

※現在ご利用中のネームサーバーを管理している指定事業者に依頼してください。自社でネームサーバーを管理している場合は自社にて変更をします。

2.2.2. 作成した DNS ゾーンおよびレコードの確認

以下のコマンドで、レコードの確認をします。

- ① 切替元ネームサーバーに登録されているゾーンの TTL が 600 になっていることを確認します。

切替元ネームサーバー	切替先ネームサーバー(クラウド DNS)
<pre>\$ dig example.com @a.iana-servers.net. ns ; ;; QUESTION SECTION: ; example.com IN NS ; ;; ANSWER SECTION: example.com. 600 IN NS b.iana-servers.net. example.com. 600 IN NS a.iana-servers.net.</pre>	<pre>\$ dig example.com @ns01.idcfcloud.com ns ; ;; QUESTION SECTION: ; example.com IN NS ; ;; ANSWER SECTION: example.com. 3600 IN NS ns01.idcfcloud.com. example.com. 3600 IN NS ns02.idcfcloud.com. example.com. 3600 IN NS ns03.idcfcloud.com.</pre>

- ② 切替元ネームサーバーに登録されている DNS ゾーン example.com のすべてのレコードの TTL が 600 になっていることを確認します。

切替元ネームサーバー	切替先ネームサーバー(クラウド DNS)
<pre>\$ dig www.example.com @a.iana-servers.net ; ;; QUESTION SECTION: ; www.example.com IN A ; ;; ANSWER SECTION: www.example.com 600 IN A 203.0.113.1</pre>	<pre>\$ dig www.example.com @ns01.idcfcloud.com ; ;; QUESTION SECTION: ; www.example.com IN A ; ;; ANSWER SECTION: www.example.com 600 IN A 203.0.113.1</pre>

3. ネームサーバー切替手順:切替編

⚠ 注意

- ここから先の手順は必ず上記【[2.2 TTLの短縮](#)】完了後に、変更前のTTLに設定されていた時間が経過し、キャッシュが完全に消えてから実施してください。キャッシュが残っていると切戻しが必要な際に時間がかかることで、名前解決に影響が出る時間が長くなる可能性があります。(本手順の場合は、初期TTLが3600なので、TTLを600に修正した時点から数えて3600秒(1時間)以上経過してから実施することになります。)
- もし、何らかの理由で切替元ゾーンデータを変更して差分が発生している場合は、両方のゾーンデータを一致させてから切替を行うようにしてください。

3.1. ネームサーバーの切替 その1

3.1.1. 切替元ネームサーバーの NS レコード変更

- ① IDCF クラウドにログインし、作成してある DNS ゾーン【example.com】を押下し、画面上部にある【認証する】をクリックします。「新しいDNSゾーンの場合」に記載されているNSレコードをメモ帳などに控えておき、ここでは【キャンセル】をクリックします。

DNSゾーン認証 -example.com ×

DNSゾーンを認証するには、以下のレコードが登録されている必要があります。

① 稼働中のDNSゾーンの場合
以下のTXTレコードを設定してください。認証の完了後に削除してください。

example.com. IN TXT "idcf-dns-token=3232e3ed25a69b3aba891691df1a007b"

② 新しいDNSゾーンの場合
以下のNSレコードを設定してください。1行目のレコードは、認証の完了後に削除してください。

```
example.com. IN NS 3232e3ed25a69b3aba891691df1a007b.dns-verify.idc.jp.
example.com. IN NS ns01.idcfccloud.com.
example.com. IN NS ns02.idcfccloud.com.
example.com. IN NS ns03.idcfccloud.com.
```

* 当該ゾーンにGSLB有効のレコードが含まれている場合、ゾーン承認後、課金対象となります。

* ご利用料金については[こちら](#)をご確認ください。

キャンセル
認証する

変更するNSレコードを控える

- ② 替元ネームサーバーに登録されている NS レコードを、先ほど控えた NS レコードに変更します。切替が完了すると、どちらのネームサーバーに対しても名前解決クエリが発生することになります。

※現在ご利用中のネームサーバーを管理している指定事業者に依頼してください。自社でネームサーバーを管理している場合は自社にて変更をします。

3.1.2. 切替元ネームサーバーの NS レコードの確認

- ① NS レコードが確実に変更されたことを確認します。全ての切替元ネームサーバー (a.iana-servers.net./b.iana-servers.net.) に登録されている NS レコードが、クラウド DNS を向いていることを確認します。

切替元ネームサーバー	切替先ネームサーバー(クラウド DNS)
<pre>\$ dig example.com @a.iana-servers.net. ns ; ;; QUESTION SECTION: ; example.com IN NS ;; ANSWER SECTION: example.com. 600 IN NS ns01.idcfcloud.com. example.com. 600 IN NS ns02.idcfcloud.com. example.com. 600 IN NS ns03.idcfcloud.com.</pre>	<pre>\$ dig example.com @ns01.idcfcloud.com ns ; ;; QUESTION SECTION: ; example.com IN NS ;; ANSWER SECTION: example.com. 3600 IN NS ns01.idcfcloud.com. example.com. 3600 IN NS ns02.idcfcloud.com. example.com. 3600 IN NS ns03.idcfcloud.com.</pre>
<pre>\$ dig example.com @b.iana-servers.net. ns ; ;; QUESTION SECTION: ; example.com IN NS ;; ANSWER SECTION: example.com. 600 IN NS ns01.idcfcloud.com. example.com. 600 IN NS ns02.idcfcloud.com. example.com. 600 IN NS ns03.idcfcloud.com.</pre>	

- ② 切替元と切替先ネームサーバーに登録されているすべてのレコードが同じ応答を返すことを確認します。

切替元ネームサーバー	切替先ネームサーバー(クラウド DNS)
<pre>\$ dig www.example.com @a.iana-servers.net ; ;; QUESTION SECTION: ; www.example.com IN A ;; ANSWER SECTION: www.example.com 600 IN A 203.0.113.1</pre>	<pre>\$ dig www.example.com @ns01.idcfcloud.com ; ;; QUESTION SECTION: ; www.example.com IN A ;; ANSWER SECTION: www.example.com 600 IN A 203.0.113.1</pre>

③ 名前解決のルートは、まだ切替元ネームサーバーを経由していることを確認します。

```

example.comドメインの名前解決ルート
$ dig example.com ns +trace
;; global options:  printcmd
.                518400  IN      NS      A.ROOT-SERVERS.NET.
.                518400  IN      NS      B.ROOT-SERVERS.NET.
.                518400  IN      NS      C.ROOT-SERVERS.NET.
.                518400  IN      NS      D.ROOT-SERVERS.NET.
;
;; Received 508 bytes from 127.0.0.1#53(127.0.0.1) in 0 ms
com.             172800  IN      NS      a.gtld-servers.net.;
com.             172800  IN      NS      b.gtld-servers.net.
com.             172800  IN      NS      c.gtld-servers.net.
com.             172800  IN      NS      d.gtld-servers.net.
;
;; Received 491 bytes from 202.12.27.33#53(A.ROOT-SERVERS.NET) in 1 ms
example.com.     172800  IN      NS      a.iana-servers.net.
example.com.     172800  IN      NS      b.iana-servers.net.
;; Received 94 bytes from 10.10.10.10#53(a.gtld-servers.net) in 106 ms
example.com.    3600  IN  NS      ns01.idcfcloud.com.
example.com.    3600  IN  NS      ns02.idcfcloud.com.
example.com.    3600  IN  NS      ns03.idcfcloud.com.
;; Received 226 bytes from 199.43.135.53 #53(a.iana-servers.net) in 107 ms

```

3.2. ネームサーバーの切替 その2

3.2.1. 親ネームサーバーの NS レコード変更

親ネームサーバーに登録されている NS レコードを、切替先ネームサーバーであるクラウド DNS に切替ます。登録する NS レコードは【 [3.1.1 切替元ネームサーバーの NS レコード変更](#) 】で確認したものと同じです。

切替完了時点から、キャッシュが切れるまではそれぞれのネームサーバーに対して名前解決クエリが発生し、キャッシュが切れてからは切替先ネームサーバーに対してのみ名前解決クエリが発生します。

※現在ご利用中のネームサーバーを管理している指定事業者に依頼します。

3.2.2. 親ネームサーバーの NS レコードの確認

- ① 親ネームサーバーに登録されている NS レコードが切替先ネームサーバーであるクラウド DNS へ向いていることを確認します。

親ネームサーバー	切替先ネームサーバー(クラウド DNS)
<pre>\$ dig example.com @a.gtld-servers.net. ns ; ;; QUESTION SECTION: ; example.com IN NS ;; ANSWER SECTION: example.com. 600 IN NS ns01.idcfcloud.com. example.com. 600 IN NS ns02.idcfcloud.com. example.com. 600 IN NS ns03.idcfcloud.com.</pre>	<pre>\$ dig example.com @ns01.idcfcloud.com ns ; ;; QUESTION SECTION: ; example.com IN NS ;; ANSWER SECTION: example.com. 3600 IN NS ns01.idcfcloud.com. example.com. 3600 IN NS ns02.idcfcloud.com. example.com. 3600 IN NS ns03.idcfcloud.com.</pre>

- ② 切替元と切替先ネームサーバーに登録されているすべてのレコードが同じ応答を返すことを確認します。

切替元ネームサーバー	切替先ネームサーバー(クラウド DNS)
<pre>\$ dig www.example.com @a.iana-servers.net ; ;; QUESTION SECTION: ; www.example.com IN A ;; ANSWER SECTION: www.example.com 600 IN A 203.0.113.1</pre>	<pre>\$ dig www.example.com @ns01.idcfcloud.com ; ;; QUESTION SECTION: ; www.example.com IN A ;; ANSWER SECTION: www.example.com 600 IN A 203.0.113.1</pre>

- ③ 名前解決のルートが切替先ネームサーバーであるクラウド DNS を経由していることを確認します。

```

example.com ドメインの名前解決ルート
$ dig example.com ns +trace
;; global options:  printcmd
.                518400  IN      NS      A.ROOT-SERVERS.NET.
.                518400  IN      NS      B.ROOT-SERVERS.NET.
.                518400  IN      NS      C.ROOT-SERVERS.NET.
.                518400  IN      NS      D.ROOT-SERVERS.NET.
;
;; Received 508 bytes from 127.0.0.1#53(127.0.0.1) in 0 ms
com.             172800  IN      NS      a.gtld-servers.net.;
com.             172800  IN      NS      b.gtld-servers.net.
com.             172800  IN      NS      c.gtld-servers.net.
com.             172800  IN      NS      d.gtld-servers.net.
;
;; Received 491 bytes from 202.12.27.33#53(A.ROOT-SERVERS.NET) in 1 ms

example.com.     172800  IN      NS      ns01.idcfcloud.com.
example.com.     172800  IN      NS      ns02.idcfcloud.com.
example.com.     172800  IN      NS      ns03.idcfcloud.com.
;; Received 94 bytes from 192.5.6.30#53(a.gtld-servers.net) in 106 ms

example.com.    3600  IN  NS      ns01.idcfcloud.com.
example.com.    3600  IN  NS      ns02.idcfcloud.com.
example.com.    3600  IN  NS      ns03.idcfcloud.com.
;; Received 226 bytes from 210.140.183.65 #53(ns01.idcfcloud.com) in 107 ms

```


4. ネームサーバー切替手順:事後編

注意

- ここから先の手順は上述の【 [3.2 ネームサーバーの切替 その2](#) 】を確実に完了させ、以下を確認してから実施してください。
 - ◇ 登録しているすべてのレコードが名前解決できること。
 - ◇ 親ネームサーバーで設定されたTTLの時間が経過し、キャッシュが完全に消えていること。
- キャッシュが残っている状態で切替元ネームサーバーに登録されたDNSゾーンを削除した際、名前解決に影響が出る可能性があります。以下に例としていくつかのTLDごとのTTLを記載します。本手順の場合は”.com”なのでTTL172800となり、切替完了時点から数えて172800秒(48時間)以上経過してから実施することになります。

TLD	TTL
.jp	86400(24 時間)
.com	172800(48 時間)
.net	172800(48 時間)

※上記は参考情報となります。実際の切替の際にはお客様にてご確認ください。

- もし、切替先でキャッシュが切れる前にゾーンデータを変更する場合は、切替元と切替先両方のゾーンを一致させるようにしてください。

4.1. DNS ゾーン削除

4.1.1. 切替元ネームサーバーの DNS ゾーン削除

不要になった切替元ネームサーバーに登録されているDNSゾーンを削除します。DNSゾーン削除完了後は切替元ネームサーバーでの名前解決ができなくなります。

※切替元ネームサーバーを管理している指定事業者に依頼してください。自社でネームサーバーを管理している場合は自社にて削除をします。

4.1.2. 削除した DNS ゾーンが消えているか確認

- ① 切替元ネームサーバーに問い合わせても名前解決できない(**NOERROR** 以外を返す)が、クラウド DNS に問い合わせた場合は名前解決できる(**NOERROR** を返す)ことを確認します。

切替元ネームサーバー	切替先ネームサーバー(クラウド DNS)
<pre>\$ dig example.com @a.iana-servers.net. ns ; ;; ->>HEADER<<- opcode: QUERY, status: REFUSED, id: 22168 ;; QUESTION SECTION: ; example.com IN NS</pre> <p>※ANSWER SECTIONなし</p>	<pre>\$ dig example.com @ns01.idcfcloud.com ns ; ;; ->>HEADER<<- opcode: QUERY, status: NOERROR, id: 11036 ;; QUESTION SECTION: ; example.com IN NS ;; ANSWER SECTION: example.com. 3600 IN NS ns01.idcfcloud.com. example.com. 3600 IN NS ns02.idcfcloud.com. example.com. 3600 IN NS ns03.idcfcloud.com.</pre>

4.2. TTL 修正

4.2.1. 切替先 DNS ゾーンの TTL 変更

ネームサーバー切替のために設定していた TTL を 600 から任意の値に変更します。本手順では値を 3600 とします。TTL 変更のやり方は「レコードごとに変更する」場合と「すべてのレコードをまとめて変更する」場合の二通りがあります。まずクラウド DNS のメニューから example.com ゾーンの一覧を開きます。

- 「レコードごとに TTL を変更する」場合は、対象のレコード【www.example.com】をクリックし下記①を実施します。
- 「全てのレコードの TTL をまとめて変更する」場合は、【+DNS ゾーン詳細】をクリックし、下記②を実施します。

DNS / ゾーン / example.com

+DNSゾーン詳細 / テンプレートを作成 / 確認する

20件 100件 Export

レコード名	タイプ	TTL	レコード数	値
example.com	SOA	3600	-	ns01.idcfcloud.com hoge hoge.idcf.jp. 4 10800 3600 604800 3600
example.com	NS	3600	-	ns01.idcfcloud.com
example.com	NS	3600	-	ns02.idcfcloud.com
example.com	NS	3600	-	ns03.idcfcloud.com
hoge hoge.example.com				203.0.113.1

5件中 1 ~ 5件 を表示

- ① 「TTL」を 600 から 3600 に変更して【登録する】をクリックします。
 同じように任意のレコードをすべて変更するまで繰り返してください。

レコード編集 ×

タイプ * **A** AAAA CNAME MX TXT SRV

レコード名 * .example.com

ラベル名63文字以内、ドメイン名全体で253文字以内で入力してください。*はワイルドカード、@はレコード名空白として設定されます。

GSLB * **無効**

TTL(秒) * 3600 (600-86400)

値 ? *

IPv4アドレスを入力してください。

キャンセル 変更する

- ② 「TTL 初期値」を 600 から 3600 に変更して【TTL 一括変更】をクリックします。

example.com ×

DNSゾーン詳細

TTL一括変更
ゾーン削除

TTL初期値 ? *	3600	
レコード上限数 ?	100	600→3600 に変更
説明		
UUID	765e8435-3887-4758-9c25-b98d7b857b07	
作成日時	2017-01-27 18:01:43	
更新日時	2017-01-27 21:13:30	

4.2.2. 変更した TTL の確認

- ① クラウド DNS に登録されているレコードのうち、上記で TTL を変更したすべてのレコードの TTL が 3600 になっていることを確認します。

```
切替先ネームサーバー(クラウド DNS)
$ dig www.example.com @ns01.idcfcloud.com
;
;; QUESTION SECTION:
; www.example.com      IN      A
;
;; ANSWER SECTION:
www.example.com 3600 IN  A  203.0.113.1
```

以上で、クラウド DNS へのネームサーバー切替手順は終了となります。

5. お問い合わせ

クラウド DNS のサービスまたは使い方についてのご質問は IDCF クラウドポータル のチケットからお問い合わせください。

※ただし、本資料に関するご質問はサポートしておりません。あらかじめご了承ください。



6. 用語集一覧

資料内の用語一覧

- **ネームサーバー**…権威サーバーや DNS コンテンツサーバーなどとも呼ばれる。ドメイン名の階層構造を構成し、名前情報を管理する。
 - **ドメイン**…人間がわかりやすくコンピュータを特定するために使う文字列。階層構造で管理される。
 - **DNS ゾーン**…ネームサーバーがドメインを管理する単位。DNS ゾーンはそれ自体のみで管理される。
 - **DNS ゾーンデータ**…DNS ゾーンに設定されている情報。レコード、TTL などで構成される。
 - **レコード**…名前解決の問い合わせに対して、何を返すかを定義したもの。応答する内容によっていくつかのタイプに分かれる。
 - **TTL**…問い合わせがあった内容をリゾルバがキャッシュしておく時間を定めたもの。一度キャッシュされると、キャッシュ時間がなくなるまでネームサーバーへの問い合わせは発生せずにキャッシュされた値を返す。
 - **リゾルバ**…キャッシュサーバーや DNS リゾルバなどとも呼ばれる。ユーザー（クライアント）の要求を受けネームサーバー サーバー群によるドメイン名の階層構造をたどり、名前解決サービスを提供する。
 - **名前解決**…要求されたドメイン名を IP アドレスに変換すること。（正引き）
 - **権威委譲**…上位ドメインから下位ドメインにその管理権限を委譲すること。
 - **TLD**…トップレベルドメインの略。ドメイン名前階層の中でルート直下に位置するドメインのこと。登録資格や管理団体によっていくつかの種類に分かれる。
-

8. リンク集

参考文献

- 株式会社日本レジストリサービス(2014)
「DNSの安全性・安定性向上のためのキホン ～お使いのDNSサーバーは大丈夫ですか？～」
<https://jprs.jp/related-info/guide/020.pdf>
- 株式会社日本レジストリサービス(2015)
「DNSサーバーの引っ越し ～トラブル発生を未然に防ぐ手順とポイント～」
<https://jprs.jp/related-info/guide/019.pdf>

クラウドDNSについて

- サービス案内
<https://www.idcf.jp/cloud/dns/>
- サービス仕様書
https://www.idcf.jp/cloud/pdf/dns/dns_spec.pdf

クラウドDNSへのネームサーバー切替手順

Ver.1.01

発行日:2017年2月28日

株式会社 IDC フロンティア

〒102-8124

東京都千代田区紀尾井町 1-3

東京ガーデンテラス紀尾井町 紀尾井タワー

<https://www.idcf.jp/>

CS-PUB-M0141-ET